

第38回

日本臨床栄養代謝学会で発表を行いました!

JSPEN2023 in KOBE



2023年5月9日～10日の2日間に渡り、神戸コンベンションセンターにて第38回日本臨床栄養代謝学会（JSPEN）が開催されました。久方ぶりの本格的な現地開催では延べ8000人もの人々が参加され、今学会のテーマである「Jump!」にふさわしい開放的で活気のある学会でした。この度、当院 NST チェアマンである松末 智 診療顧問をはじめ、NST より2題発表させて頂いたためご報告いたします。

一般演題(口演)

『精神科単科施設における末梢静脈栄養施行時の問題』

目的

精神科単科施設でも経口摂取が不十分な患者への末梢静脈栄養(PPN)が必要になるが、PPN 施行にあたり精神疾患特有の問題があり、その解決策を探り、より良い栄養管理に繋げることを目的として調査を行った。

前向き調査(期間):2020年1月~2022年6月 対象:NST介入したPPN施行患者

結果

PPN 施行数:81例
 年齢中央値:78歳(45-96)
 PPN 日数:中央値9日(3-138)
 ※2週間以上継続:25例

原疾患例数:認知症40例 統合失調症16例 など
 併存症あり:50/81例
 PPN 施行理由:4割が肺炎
 静脈カニューラ保護目的の拘束:計29例

結論

精神疾患患者へのPPN施行の問題点が明らかに

- ①(超)高年齢 ②予後に関連する併存症
- ③原疾患の性質上のEN拒否や転院拒否によるPPN長期施行
- ④投与経路保護のための拘束

精神疾患患者へのPPN 施行には、問題点の予見と対策を熟知したケアが重要!!



NST チェアマン
 松末 智 診療顧問

当院での末梢静脈栄養(PPN)施行の実態と施行時の問題について発表して来ました。2週間以上の長期施行、静脈炎の合併、身体拘束が問題でありました。

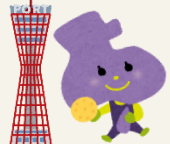
当院からは管理栄養士の久住朋さんもポスターセッションで胃瘻から完全経口摂取に移行できた症例を発表しました。良い発表でした。

学術集会には参加者が多く、4年ぶりの現地開催とは思えぬ程の活発な意見交換がなされており、参加した当院 NST メンバーもその活況に刺激を受けたようでした。今後も、新知見を吸収する良い機会になりますので、積極的にこのような集会への参加を勧めていきたいと思っております。

NST栄養クイズ

Q. ①~④は兵庫県内のどの地域の名物でしょうか?

- ①たまねぎ ②牛肉 ③手延べそうめん ④生姜醤油おでん
- a.但馬 b.神戸・阪神 c.淡路 d.播磨



『胃瘻による経腸栄養管理を経て完全経口移行できた1症例』

—精神疾患単科病院における NST 活動—

【症例】 老年期認知症やてんかんを合併している、認知機能悪化に伴う嚥下機能低下から誤嚥性肺炎を繰り返していた70代男性(2021年 NST 介入)



NST 管理栄養士
久住 朋

まとめ

- ① 適切な EN 管理(胃瘻)と定期的かつ持続的な経口摂取訓練により経口移行
- ② 適切な EN 管理は栄養状態だけでなく精神状態も良好に維持
- ③ この症例を通して精神科領域における経腸栄養の特殊性と問題点が明らかに
- ④ 今後も精神科領域での栄養管理は、薬剤調整による精神状態の安定を基盤とし、患者の QOL 向上に向けて多職種で長期的に関わっていく必要がある

この度ポスター発表にて NST 活動の一端を自身で報告させていただき貴重な機会を頂きました。6月下旬まで7階エレベーターホールにて実物を掲示中なのでよろしくお願いいたします！

Day 1



「高齢者の栄養管理を考える」をテーマに学会に参加

高齢者の食思不振や、サルコペニア・フレイル問題、在宅の褥瘡管理など、様々な角度から栄養管理について学ぶことができたとともに、医療介護連携の重要性や、チーム医療の重要性について、より深く考えることが出来ました。入院患者の高齢化も進んでおり、高齢者の食思不振や低栄養問題は今後さらに増えていくと思われます。管理栄養士として、今できることは何か、患者や家族にとって一番よい方法は何なのかを模索し、これからも患者の栄養管理と真剣に向き合っていきたいと思えます。(管理栄養士 樋口 MM)

現地参加でしか味わえない刺激をたくさん受けた

今回歴史ある JSPEN の学術集会に参加させて頂き、現地ですら味わえない刺激をたくさん受けました。

高齢者の食思不振への対応をテーマにした合同シンポジウムでは、多岐にわたる食思不振の原因に早期に介入することの必要性とチーム医療の重要性を再認識することができました。生化学を用いた栄養管理の講演では脂肪乳剤やケトン食療法、BCAA の使用について大変興味深く学ぶことができました。栄養学が身体機能維持のために大切であることを様々な角度から学ばせて頂き大変勉強になりました。(臨床検査技師 吉田)

これからの高齢患者の対応について考えさせられた

様々な講演の中でも高齢者の誤嚥性肺炎を防ぐ対応について検討した講演は、当院でも同様の患者様が少なくない状況であり、とても為になる情報を得る事が出来ました。又、当院栄養士によるポスター展示では胃瘻から経口摂取に至った症例を発表し、精神科単科病院でのこのような症例は珍しく多数の質問を受けていました。松末 Dr の発表では PPN での問題点、高齢患者の ACP について述べられており高齢者の患者様の対応について、とても考えさせられました。今回の大会に参加し、栄養に関してもっと学ばなければならぬと刺激を受けた研修でした。(看護師 藤原 MM)

精神科での問題点と多職種連携の重要性を学んだ

初めての学術集会への参加で規模の大きさや講演数の多さに驚きましたが、どれも大変興味深く、貴重な機会となりました。松末先生の講演や久住管理栄養士のポスター発表を拝聴し、精神科特有の問題点(EN 拒否など)や、栄養管理の大切さ、多職種との連携の重要性を改めて感じました。「フレイル予防のための自宅でできる運動」の講演では、椅子を使った筋トレやポイントを学び、今後栄養指導等で患者様にも勧めたいと思いました。(管理栄養士 柳澤)

Day 2



2023 年度 NST リンク Ns をよろしくお願ひします

4月より NST に再び参加させていただく事になりました。以前、NST リンクナースに参加させていただいた時に、栄養だけでなく胃ろうや経腸栄養、健康管理など様々な事に関わっているのだと痛感しました。他職種の方々との協力を得ながら、NST の一員としてがんばりたいと思ひます。(第9病棟 竹井 崇子)



4月より NST リンクナースに初めて参加させていただきます。これから、他職種の方々との連携を通して患者様を支援していけるよう栄養管理について学んでいき、現場に必要な情報を発信できればと思っています。(第3 相良裕子)

▼NSTメンバー学会参加報告